

2020年度 第1回町田市介護保険事業計画・高齢者福祉計画審議会議事録

〔日時〕 2020年7月1日（水）18：30～20：00

〔場所〕 市庁舎10階 会議室10-2～5

〔出席委員〕 ※敬称略

今井、長田（久）、長崎、原口、齋藤、馬場、小澤、佐々木、松山、長谷川、安達、老沼、西嶋、長田（哲）
五十子、西口

－16名

〔事務局〕

岡林部長、佐藤課長、田中課長、川島課長、江成課長、古味課長、菊地原課長、
大島係長、栗山係長、犬塚係長、西山係長、近藤係長、皆川係長、氏家係長、佐藤係長、
小山、高木

－17名

〔会議の公開・非公開の別〕 公開

〔傍聴人〕 3名

〔次第〕

- 1 開会挨拶
- 2 委員紹介
- 3 報告

（1）町田市内の高齢化の状況（資料1・1-2）

- 4 議題

（1）「（仮称）町田市いきいき長寿プラン2 1-2 3」の策定について

ア 計画骨子（案）（資料2）

イ 計画策定スケジュール（資料3・4）

- 5 事務局より
- 6 閉会

配付資料

資料1 町田市内の高齢化の状況

資料1-2 日常生活圏域図及び高齢者支援センター区域図

資料2 「（仮称）町田市いきいき長寿プラン2 1-2 3」 骨子（案）

資料3 「（仮称）町田市いきいき長寿プラン2 1-2 3」 策定スケジュール

資料4 町田市介護保険事業計画・高齢者福祉計画審議会 部会 委員構成（案）

〔内容〕

1 開会挨拶

事務局 定刻になりましたので、ただいまから「2020年度第1回町田市介護保険事業計画・高齢者福祉計画審議会」を開会いたします。私は事務局を担当しております、いきいき生活部いきいき総務課長の佐藤と申します。しばらくの間、進行を務めさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

まず初めに、いきいき生活部長の岡林から、開会のご挨拶を申し上げます。

事務局 皆さん、こんばんは。いきいき生活部長の岡林でございます。審議会委員の皆さまには、日頃から、町田市の高齢者施策や介護保険行政にご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。本審議会は、今年度、「町田市高齢社会総合計画審議会」から「町田市介護保険事業計画・高齢者福祉計画審議会」へと名称を新たにし、「(仮称)町田市いきいき長寿プラン21-23」の策定に向けた議論を本格開始いたします。

町田市では、これまで、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で自立した日常生活を送ることができるよう、「地域包括ケアの推進」を最重要課題と位置づけ、町田市医師会等と連携した「町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト」通称「町プロ」や、認知症カフェ「Dカフェ」をはじめとした認知症支援施策等に、先進的に取り組んでまいりました。

今後、「団塊の世代」が75歳以上となる2025年、更には、いわゆる「団塊ジュニア世代」が65歳以上となる2040年に向け、高齢者人口が増加していく中、地域の実情に合わせた「地域包括ケアの推進」は、より重要となつてまいります。

市民の4人に1人以上が高齢者である町田市におきましては、今後の高齢者福祉施策の方向性や次期介護保険料を決定する「(仮称)町田市いきいき長寿プラン21-23」は、市民生活に大きな影響を及ぼし得る重要な計画と認識しております。委員の皆さまには、限られた時間ではありますが、忌憚のないご意見をたまわり、闊達なご議論を重ねていただければと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局 次に、町田市介護保険事業計画・高齢者福祉計画審議会の開催に先立ちまして、委員の委嘱を行わせていただきたいと思います。本来、該当の方お一人おひとりに直接委嘱状をお渡しするところでございますが、本日は時間の都合上、委嘱状を封筒に入れ机上配布させていただいておりますので、ご確認をお願いいたします。

本日お集まりいただきました皆さまには、今年度より新たに町田市介護保険事業計画・高齢者福祉計画審議会の委員として委嘱をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、本審議会の会長をご紹介いたします。会長は、町田市介護保険事業計画・高齢者福祉計画審議会条例第5条に基づき、書面にて委員の互選により決定し、今井幸充先生にご就任いただくこととなりました。

今井先生は、日本認知症ケア学会の理事長を務められるなど、認知症高齢者の医療・福祉について豊富な知識や経験をお持ちであり、また、2001年からは日本社会事業大学大学院で高齢者福祉研究を課題に様々な問題に取り組まれるなど、高齢者福祉に幅広い見識をお持ちの方でございます。

現在は、認知症専門の病院である医療法人社団 翠会 和光病院の院長をされています。また、多年にわたり町田市介護認定審査会の委員を務めていただき、現在は鶴川サナトリウム

病院の外来を担当されるなど、町田市とのご縁も深い方でいらっしゃると思います。どうぞよろしくをお願いいたします。

続きまして、本審議会の副会長となる「職務代理」の選任に移ります。職務代理は、町田市介護保険事業計画・高齢者福祉計画審議会条例第5条第3項の規定により、会長が指名することとなっています。

今井会長、いかがでしょうか。

今井会長 指名させていただきます。今回の職務代理を桜美林大学の副学長であられます、長田久雄先生にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

事務局 ありがとうございます。今井会長より、長田久雄委員にご指名がありましたが、長田委員、職務代理をお引き受けいただけますでしょうか。

長田（久）委員 今期からということで不慣れです。お引き受けいたしまして、微力ながら、皆さんのお力添えで進めたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

事務局 ありがとうございます。ご承認をいただきましたので、長田久雄委員に本審議会の職務代理をお願いいたします。それでは、今井会長より一言ご挨拶をいただきたいと存じます。よろしくをお願いいたします。

今井会長 今日は足元の悪い中、また新型コロナ騒ぎの中、お集まりいただきましてありがとうございます。この審議会が町田市の介護保険行政あるいは高齢者福祉行政に大変重要な役割を果たしていることは、皆さんにご認識いただいていると思います。

この度、新型コロナの影響で開催が少し遅れましたけれども、時間が短い分、濃密に皆さんにディスカッションしていただいて、よい施策につながったらと思っております。どうかよろしくをお願いいたします。

事務局 今井会長、ありがとうございました。続きまして、長田職務代理に一言ご挨拶をいただきたいと思います。どうぞよろしくをお願いいたします。

長田（久）委員 これからの3年間の方向を定める、大変重要な審議会です。私は老年学という分野で、特に心理学系の老年学をしておりますが、高齢者が幸せに生き、そして変な言い方ですが幸せに死んでいくという一生の問題は非常に重要であり、それを担う審議会に重い責任を感じております。私自身は、住まいは川崎市新百合ヶ丘です。町田市に住みたくなるような審議会の成果を出していけるとよいと思います。よろしくをお願いいたします。

2 委員紹介

- 事務局 続きまして、他の委員の皆さまにも自己紹介をお願いいたします。恐れ入りますが、長崎委員から時計回りで、お名前、所属団体等について簡単にご紹介いただければと思います。
- 長崎委員 町田市歯科医師会の長崎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
- 原口委員 町田市の南第3高齢者支援センターのセンター長の原口と申します。今回初めてですので、よろしくお願いいたします。
- 齋藤委員 町田市ケアマネジャー連絡会の齋藤です。またよい企画ができればと思いますのでよろしくお願いいたします。
- 馬場委員 町田市社会福祉協議会の馬場と申します。よろしくお願いいたします。
- 小澤委員 町田市老人クラブ連合会の会長を5月からさせていただいております、小澤と申します。よろしくお願いいたします。
- 佐々木委員 市民委員の佐々木と申します。住まいは相原で、多摩美術大学の近くでございます。初めてですが、よろしくお願いいたします。
- 松山委員 市民委員の松山と申します。住まいは南町田です。北と南の端から来たと話していたのですが、どうぞよろしくお願いいたします。
- 長谷川委員 市民委員の長谷川です。鶴川に住んでおります。仕事もしております現役なのですが、経営的な観点からも意見をしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。
- 安達委員 町田市町内会自治会連合会の安達と申します。ここへきて、長期計画審議会や学校関係の適正規模・適正配置など、ありとあらゆるものに町内会として関わらせていただいております。この審議会では、介護保険について詳しいことはわかりませんが勉強しながら、私なりに考えたことがありましたら発言させていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。
- 老沼委員 町田市民生委員児童委員協議会忠生第一地区老沼と申します。初めての参加です。どうぞよろしくお願いいたします。
- 西嶋委員 町田市介護サービスネットワークを代表して今回は参加させていただきます、西嶋と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
- 長田（哲）委員 町田市薬剤師会理事を務めております、長田哲治と申します。私は去年から介護保険料を払い始めました。この中で一番若いと思っておりますので、その辺の視点から色々考えられればと思っております。よろしくお願いいたします。
- 五十子委員 町田市医師会を代表しまして、五十子と申します。生まれも育ちも町田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
- 西口委員 東京家政学院大学の西口と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
- 事務局 ありがとうございます。次に、いきいき生活部の管理職をご紹介させていただきたいと思っております。
- 事務局 いきいき生活部保険年金課長の田中と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
- 事務局 この4月より高齢者福祉課長に着任いたしました、川島と申します。よろしくお願いいたします。
- 事務局 高齢者福祉課地域支援担当課長の江成と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
- 事務局 皆さん、こんばんは。介護保険課長をしております、古味と申します。よろしくお願いいたします。

事務局 介護保険課担当課長の菊地原と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局 続きまして、本審議会への諮問についてご報告いたします。委員の皆様には、2020年6月4日付け文書にて郵送いたしました通り、2020年6月1日付けにて、「(仮称)町田市いきいき長寿プラン21-23」の策定について、諮問しております。

「(仮称)町田市いきいき長寿プラン21-23」は、ただ今、部長からもございました通り、「団塊の世代」が介護リスクの高い後期高齢者となる2025年、更には「団塊ジュニア世代」が高齢者となる2040年を見据え、基本理念である「高齢者の尊厳が守られ、人生の豊かさが実感できるまち～地域で支えあい健やかで自分らしさを感じられるまちの実現～」を目指して策定してまいります。委員の皆さまには、計画策定に向け、忌憚のないご意見をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

※本日の流れの確認や資料確認等の事務連絡後、進行を今井会長へ引継

3 報告

(1) 町田市内の高齢化の状況(資料1)

今井会長 それでは、審議を行いたいと思います。まず報告事項の(1)から進めさせていただきます。「町田市内の高齢化の状況」について、事務局にご説明いただきたいと思います。

※事務局より資料1、資料1-2について、以下のような説明があった。

- ・町田市の総人口は、2020年1月1日時点で42万8,821人。今後減少し、2040年には38万8,924人にまで、約1割減少する見込みである。一方、高齢者人口は約23%増加する見込みで、2040年には高齢者1人を生産年齢人口1.5人で支える社会が訪れると考えられる。
- ・後期高齢者人口は、「団塊の世代」が後期高齢者となる2025年に向けた直近の5か年の増加率が特に高い。
- ・日常生活圏域別にみると、最も高齢化率が高いのは町田圏域で27.4%、最も低い南圏域は26.5%となっている。12の高齢者支援センター区域別では、最も高齢化率の高い町田第2区域35.0%と、最も低い堺第2区域17.2%では、2倍以上の差異がある。
- ・要支援・要介護認定者数は、2011年の1万4,380人から2020年には2万1,858人と、約1.5倍となっている。要支援・要介護認定者数を介護度別にみると、要介護1以下の比較的軽度な方の増加率が高い傾向にあり、中重度以上の認定者数の増加率は比較的低い。

今井会長 今の報告に関して、何かご質問はございますか。

小澤委員 質問ではなく、間違っているのではないかと思いますのですが、資料1の1ページ、7行目「これに伴い高齢化率も上昇を続け、2020年には36.5%に達する見込みです。」とありますが、2040年の間違いではありませんか。

事務局 失礼いたしました。2040年の誤りでございます。資料をホームページに公開する際には、ただ今のご指摘を反映させていただきます。ご指摘ありがとうございます。

今井会長 ありがとうございます。他にご質問はございませんか。

それでは、議題の(1)「(仮称)町田市いきいき長寿プラン2 1-2 3」の策定について、事務局から計画骨子(案)を説明していただきたいと思います。

4 議題

(1) 「(仮称) 町田市いきいき長寿プラン2 1-2 3」の策定について

ア 計画骨子(案)(資料2)

事務局 資料のご説明に入る前に、これまでの経緯や前提について説明させていただきます。町田市介護保険事業計画は、介護保険法に基づく市町村介護保険事業計画で、計画期間は2018年から、今年度2020年度までの3か年となっております。町田市高齢者福祉計画は、老人福祉法に基づく市町村老人福祉計画で、計画期間は2012年から2021年度までの10か年となっております。これらの根拠法令におきましては、両計画は「一体のものとして作成されなければならない」とされており、町田市では、両計画の策定期間が重なるこの機会に、あり方を見直す方向で調整を進めてまいりました。

2018年度には、計画が2つに分かれていることで市民にとって施策の全体像が把握しにくいなどのデメリットがあることから、両計画を一体化し策定することについて、本審議会に附議をし、方針決定をさせていただいております。2019年度には、次期計画の策定に向けまして、市内の高齢者や介護保険事業所を対象としたアンケート調査を実施し、今年度は、各種調査の分析結果等から現状と課題を整理し、次期計画を策定していくかたちになっております。それでは、資料2をご覧ください。

※事務局より資料2について、以下のような説明があった。

- ・施策体系(案)を考えるにあたっては、「現行計画の進捗状況評価」から課題を抽出し、「各種調査等の分析結果」、「地域ケア会議等からの抽出課題」、「国等からの方針・法改正等」の内容とも照らし合わせて整理をしてまとめている。
- ・「現行計画の進捗状況評価」は8つの施策分野にまとめられている。分野ごとに抽出された次期計画に反映すべき課題については、資料2参照。
- ・「各種調査等の分析結果」でわかったことは、「生活支援・介護予防」に関しては、要介護1~5の方を除く高齢者の要支援・要介護リスク者の割合は52.3%で、75歳以降に高まる傾向があること。「認知症支援」に関しては、要介護1~5の方を除く高齢者の認知機能低下者の割合は36.7%で、年齢別にみると85歳以上で約5割となっていること。「家族介護者支援」に関しては、訪問系サービスを利用していない方の主な介護者は、就業継続困難な傾向が強いこと。「介護サービスの充実・整備」に関しては、介護保険事業所からは夜間対応型訪問介護や定期巡回・随時対応型訪問介護看護など、訪問系サービスが「不足している」との回答が多くあったこと。「介護人材の確保・育成・就労継続支援」に関しては、特に訪問系サービスにおいて非正規職員の割合が高く、職員を確保することが難しいと回答した事業所の割合が高いことである。
- ・町田市では、医療・介護をはじめとした専門職の他、福祉関係者、地域関係者、警察・消防関係者等様々な関係者が集まる地域ケア会議がある。その地域ケア会議等から抽出された課題は、軽度の支援を必要とする高齢者の増加が見込まれることから、多様な生活支援を提供できる体制づくりが必要となること。また元気な高齢者が心身の状況を維持・改善できるような環境づくりの推進が求められることである。課題に対する主な解決策については、資料2参照。
- ・国等からの方針・法改正等について、次期計画の詳細な方針は示されていないが、「2025年・2040年を見据えたサービス・人的基盤の整備」「地域共生社会の実現」「介護予防・

健康づくり施策の充実・推進」「高齢者住宅等に係る都道府県・市町村間の情報連携強化」「認知症施策推進大綱等を踏まえた認知症施策の推進」「介護人材確保及び業務効率化の取組の強化」という6つの方向性で検討が進められている。

・施策体系（案）は3つの基本目標、8つの基本施策からなる。内容については、資料2参照。

今井会長 ありがとうございます。ただいまの事務局の説明について、何かご質問なり、ご意見はございますか。

長谷川委員 事務局から現状の案件について説明を受けたのですが、今市民の関心が一番高いのは、新型コロナ関係です。新型コロナによって、高齢者がどのように変わったかという、これは町田市にとって非常によいことかもしれない。なぜなら高齢者が自ら健康を推進しようという気持ちが高まっているからです。このような意識の変化を入れ込み、それを踏まえた上で次期の施策体系を考えないと、的外れな施策になるのではないかと思います。

事務局 ご意見ありがとうございます。確かにこの資料では、現状わかり得る調査や分析の結果と国の動向の部分を掲げております。新型コロナの影響は今まさに進行しているところであり、在宅で活動する時間が長くなったことから、意識的に体を動かす、自分で色々なビデオを見て運動をするなど、意識が変わってきていることもあろうかと思います。計画を策定していくに当たっては、現状を踏まえた上で、そのような変化等も含めて考え合わせる必要もあるかと思います。

今井会長 よろしくお願いします。貴重な意見だと思いますので、今後検討していきたいと思います。
齋藤委員 要支援1・2の人が2020年で約6,300人いるわけですが、その人たちが自立に向けて健康であることが大切だと思います。前回の進捗状況の中で、介護予防のケアマネジメントを1年間で23件しか行っていなかった。6,300人のうちの23件というのは、少なすぎだと思います。皆さんが健康でいて、寿命がきて亡くなるのが理想であり、やはり健康であることはこれからの大切なポイントだと思います。ゆえに介護予防ケアマネジメントにもっと力を注がなければならないのではないかと思います。どうでしょうか。

事務局 介護予防ケアマネジメントにご意見をいただきまして、ありがとうございます。2018年度から開始した「いいケア」についてのご意見と思います。これは、昨年度までは市の主催で行ってきたのですが、今年度は各地域の高齢者支援センターが主体となり、徐々に件数を増やして実施していこうと思っております。

今井会長 より地域に密着した施策を展開したいというのが、市の意向だと思います。
西嶋委員 この計画は新型コロナ以前に進めてきたことをまとめてあります。これまで何度か私も審議会に出席しまして、今までであったら、この流れで計画を立てることができたと思うのですが、新型コロナの状況とこれから大きな不況が来るとされる経済的な問題などを含めないと机上の空論になってしまうのではないかと思います。3密を避けるとなつて、ケア会議が全く行われていない状況です。これから先、どのようなかたちで色々な活動を展開するのか、高齢者支援センターでもおそらく困っていると思います。新型コロナが今後どのような影響を及ぼしていくのかを分析・検討しないと、実のある計画にはならないのではないかと思います。このことを一番懸念しております。

今井会長 おっしゃる通りだと思います。新型コロナがこれからどうなるかというのは、医療界でも見通しが立たずなかなか答えが出てこない問題ですが、市では、今のご質問に対して何かお答えはありますか。

事務局 貴重なご意見ありがとうございます。国でも新型コロナの影響を受けまして、次期計画の基本指針について議論を重ねているようですが、今井会長からもありましたように新型コロナに関しての今後の見通しがなかなか立てにくい状況があり、基本指針が出るのが遅れている状況です。一方で、高齢者の方への生活の影響や、介護保険事業所への経済的な影響は今まさに発生しており大変影響の大きいものと思います。市として、介護予防の実施方法など、新しい生活様式に合わせたアプローチができないか、新型コロナの影響を踏まえ介護保険事業所に対しより手厚い支援ができないかなど、今後検討いたしまして、次期計画にしっかりと反映できるように進めていきたいと考えております。

今井会長 私もこの審議会の今後の進行にあたっては、新型コロナの色々な状況を見据えて、高齢者にとって住みよいまちづくりを検討していきたいと思います。他にご意見、ご質問はございますか。

長田（哲）委員 独居の高齢者は年々増えている傾向にあるのでしょうか。

事務局 手元に数値はないのですが、増えてはいる状況でございます。

長田（哲）委員 その中で、孤独死というのは結構あるのですか。

事務局 町田市は、町田警察署と南大沢警察署が管轄していますが、人数としては年々孤独死、一人暮らしで亡くなられた方は増えています。2009年は年間で79名だったところが、2018年は180名と増えており、これからもこの傾向が続くのではないかと考えております。

長田（哲）委員 これから独居の高齢者が増えていき、今のお話だとそれに伴ってやはり孤独死の方も増えていくのであれば、何か根本的に考えなければいけないところではないかと思うのですが、それについてのお考えはありますか。

事務局 地域での高齢者の方々の生活に対する見守り、あまりにも積極的にすぎると「余計なお世話」と考える方もいらっしゃると思いますが、近隣の方、また宅配サービス事業者や店舗の方も含めて、様々な視点による見守りあいが必要になってくると思います。そういったところに力を入れながら、協力していただく町内会や自治会、事業者の方々などを増やしていくことを考えております。

長田（哲）委員 おそらくそれは今までも行っていた取組だと思います。見守りにもかかわらず、それでも孤独死が増えている。それについてはいかがですか。

事務局 やはり单身の方が増えていくと、お亡くなりになる時に必ずどなたかが見守ってというのは、現実的に難しい部分がございます。ただ、体調が悪くなってきたなど、異変が見受けられるような状況をできるだけ早く察知して、何かしら支援が必要な方には適切な支援を提供していく体制が必要だと思います。具体的に「新しい取組はこうです」とは言えませんが、今までは町内会・自治会の方に頼ることが多かったのですが、事業者の方や、最近では趣味のグループなどの自主活動をされている方も多いため、そういった方々など重層的に見守りの目線を持っていただく、多様な支えあい、見守りあい環境をつくっていただければと思っております。

今井会長 他に、ご意見やご質問はございますか。

- 松山委員 高齢者にひきこもりの子どもがいる 8050 問題は、見えないけれどもあると聞きます。それも含めて、高齢者の問題を考えていけるような方策はできるのでしょうか。
- 事務局 市内に 12 か所ある高齢者支援センターで、地域の問題、どのような課題があるのかを抽出、把握していきますと、委員がおっしゃった 8050 問題、親が 80 代で子どもが 50 代、子どもに何らかの課題があつて、親に頼っている世帯が増えていることが現実に散見されるようになってきました。今後は、高齢者支援センターが高齢者の問題だけ、あるいは障がいの分野が障がいだけということではなく、横のつながりがより必要になってくると思っています。高齢者支援センター、障がい者支援センター、場合によっては保健所、子どもの関係機関が多分野で連携しながら、地域の課題を一緒に考えていく体制が必要になってくると思いますので、そういった体制づくりに取り組んでいきたいと思っています。
- 今井会長 ありがとうございます。それでは、次の議題に移らせていただきます。計画策定スケジュールについて、ご説明いただきたいと思っています。

イ 計画策定スケジュール（資料 3・4）

※事務局より資料 3・4 について、以下のような説明があつた。

- ・2021 年 3 月の「(仮称) 町田市いきいき長寿プラン 2 1-2 3」策定までの全体の流れについては、資料 3 参照。
- ・全体的な策定スケジュールは、新型コロナウイルス感染症の影響により、当初の予定より遅れている。十分な審議の場を確保するため、8 月に審議会を部会形式で 2 回開催する。部会は重点事業検討部会と保険料算定検討部会の 2 つとし、それぞれ 8 月 19 日（水）、8 月 26 日（水）を候補日として調整を進めている。各部会での審議結果は、9 月の審議会にて全委員で共有する。
- ・重点事業検討部会と保険料算定検討部会の委員構成については、資料 4 参照。

- 今井会長 ありがとうございます。この計画策定スケジュールについて、何かご質問はございますか。
- 佐々木委員 これまでの話を聞いていると、新型コロナの対応については、現場とのギャップを感じております。現場というのは、地域のコミュニティの中で色々な活動をされている自主グループが全部ストップしていることです。その中で、特に男性の高齢者は非常に孤独になっている。外出しないので体が弱くなり、精神的にも落ち込んでしまっている実態がありますので、介護予防というなら、具体的にどうするのかを入れていかないと地盤地下していくのではないかと強く感じています。テレビでは、オンラインや Zoom で色々やり取りをしている様子が流れていますが、そういうものと無縁な高齢者が多くですし、電話を通した声かけにも限度があります。今高齢者がどのような状況にあるのかお調べいただいて、ぜひスケジュールや内容に反映していただければと思います。私も重点事業検討部会に入っておりますので、知り得ることを話して、一緒に検討していただければと思いますので、よろしく願いいたします。
- 今井会長 貴重なご意見をありがとうございます。他にはございますか。それでは、計画骨子（案）や計画策定スケジュールも含めて、全体についてのご意見をお受けいたしますが、何かございますでしょうか。

長谷川委員 資料2に次期計画の施策体系(案)が並べられていますが、これらの予算はどこから出るのですか。また、その予算についてはどこで審議するのですか。

事務局 この計画に基づき取組を進めていくための予算についてのご質問だと思います。今回の計画は、高齢者福祉計画と介護保険事業計画を一体化させる計画となっております。介護保険事業は、皆さまからの保険料や公的な費用を投入し、必要な経費を賄っていきます。高齢者福祉計画の分野は介護保険事業とは違ったかたちで、高齢者の方々への様々なサービスが事業として掲げられています。例えば、ごみ袋の配付も一つの事例だと思います。そういった事業は、皆さまからいただいております、貴重な税金を使って運営されていきます。そして経費については、市の財政を管轄している部署と私共の部署がしっかりと話し合いをしながら、どこにどのような予算が必要か検討した中で決定していく流れになっております。

西口委員 今お話しいただいたように、この計画は介護保険事業計画と高齢者福祉計画が一体となった計画だと思うのですが、全体的に介護保険事業のほうには相当目配りをされていると思うのですが、高齢者福祉サービスに対しては、もう少し幅広く虐待の問題や独居の問題など、その辺の事例をきちんとおさえておく必要があるだろうと思います。

もう一つ、人材の確保の問題はこれからますます喫緊の課題となっていくだろうと思います。人口が減少し、後期高齢者が増えていく中で、人材の確保をどうしていくかをもっとリアルに考えていかないととても対応できない。先日進研ゼミの方と話をした時に、新型コロナを境に高校生がますます福祉離れをしていると聞きました。なぜかという、福祉分野はリモートができないという先入観があり、福祉離れが進んでいるそうです。アクティブシニアの方への施策も大事ですが、若年層に対しても強いメッセージを出さないと難しいと感じます。ご検討いただければと思います。

事務局 ありがとうございます。先に、長谷川委員からのご質問に対して、もう一つ付け加えさせていただきます。市の予算は、私共の部署が市の財政を管轄している部署と調整した上で、町田市議会に附議し、市民の代表である市議会議員の皆様によって議論され決定いたします。続きまして、西口委員からのご意見についてでございますが、人材確保については、大変深刻な問題であることは認識しております。ただ今西口委員からもありましたように、特に若年層に関しましては、介護・福祉分野の専門学校へ入る学生の方が多くない状況などがあると聞いております。先ほどの説明で、2040年には生産年齢人口1.5人が高齢者1人を支える肩車時代がやってくると申し上げましたが、今10代、20代の若い方がその「1.5人」の支える側となることを伝えるべきと考えております。そういった意味でも、小学生を対象とした介護施設での福祉体験事業を新しく展開したり、あるいは福祉専門学校に施設職員の方を招いて色々なお話をしていただいたり、様々な策を打っているところでございます。資料2の施策体系(案)で申し上げますと、重点候補としている「介護人材の確保・育成・定着」の中で、今後しっかり議論していくべき案件と考えております。

少し話は戻りますが、高齢者福祉計画と介護保険事業計画を一体化することについて、資料2の施策体系案を見ていただくと、現行の介護保険事業計画がベースになっている印象は否めないと思います。これは、2011年に策定した高齢者福祉計画に比べ、介護保険事業計画の方が、制度改正等の国の動向や市の実態を、より直近まで反映した体系となっているためです。「(仮称)町田市いきいき長寿プラン21-23」の8つの基本施策は、資料2の別紙「現行計画の施策体系の整理」にある8つの「施策分野」と対応しており、高齢者の権利擁

護等を含め、現行の高齢者福祉計画に掲載している施策は漏れのないよう反映しております。高齢者福祉計画と介護保険事業計画の間に優劣はありませんので、介護保険外の高齢者福祉に関する取組に関しましても、計画にしっかりと書き込んでいきたいと思ひます。

西嶋委員 町田市医師会から五十子先生がいらしておりますので、ぜひ医師会としての取組を教えてくださいたいと思ひます。新型コロナの関係で、外出自粛の結果、外来の患者が減っていると思ひます。その結果、色々な病気が悪化しているかもしれませんし、かかりつけ医にきちんとかかることを促進しないと、孤独死も含めて、これから色々な意味で大変なことが起こるかもしれません。医療界のアプローチと一体になって進めていかないと、この問題は大きくなっていくと思ひます。五十子先生、医師会としては今どのような動きがあるのでしょうか。

五十子委員 各病院の経営的ダメージは非常に大きなものとなっております。はっきりとした情報として入ってはいませんが、閉院するクリニックも出てくるのではないかと現状です。そもそもこの新型コロナという COVID-19 の正体があまりわかっていないのが非常に難しいところです。二類感染症に分類されているので、それなりの対応をしないとイケません。陽性者を出さないためには PCR 検査を積極的に迅速に行える体制づくりが一番早いと世界的にわかっているので、医師会としては PCR 検査を行う地域外来・検査センターを早々に立ち上げさせていただきました。

一方で閉じこもっていることで病状の悪化する高齢者の方も多くなったことにより、新型コロナの患者を受け入れていない病院も、患者の重症度が増して忙しくなっています。今後新型コロナが長期化することを念頭に、色々な計画をフレキシブルに策定できるようにというのが医師会の考えです。PCR 検査も必要性があるうちは長期的に検査の体制をつくっていきます。

ついでにお話しさせていただくと、人材不足ということに関しては、今回の新型コロナのことで露見されました。こういった感染症があると医療の現場は非常にひっ迫して、普段だったら病院の外来でみる人がみられなくなり、介護に頼って、医療の充実度を増すしかありませんが、介護の人材が不足しているので、「大丈夫だろうか」という話が医師会の中でもよく出ています。介護の人材の不足を補うために、外国人を雇用するとしたら、町田市は姉妹都市がないのでどのように行うのか。昨年からは始まった特定技能を取り入れて、町田市でも外国人の方々を雇用するのか、非常に注目しているところです。

今井会長 ありがとうございます。貴重なお話をいただきました。

佐々木委員 人材確保という意味で、1.5 人に 1 人という話がありましたが、これからは介護だけでなく、全産業が人材の奪い合いだと思います。町田市のよいところは、ボランティアの組織がしっかりしていることです。まちサポ（まちだサポーターズ）もそうですし、社会福祉協議会もそうです。生涯学習部門でもボランティアが沢山おられます。既存のそのような財産もぜひ視野に入れていただきたいと思ひます。また、いい意味でそこにインセンティブを付加していく。金銭だけでなく、将来の自分への投資、見返りとして、将来自分が不具合になった時、年取った時にある程度の実績も踏まえて面倒みてもらえるというような、幅広い観点から検討していただきたいと思ひます。

今井会長 ありがとうございます。時間が迫ってきましたので、そろそろ議論を終了したいと思ひますが、皆さん、ご存じのように 2015 年に総合事業が提案されたと思ひます。それに絡んで、

夜間対応のサービスや随時対応のサービスなど、色々なサービスが提案されました。おそらくそれらのサービスを行ってはいっているのですが、いまだにそれらのサービスがどれだけの効果が出て、高齢者に対してどのような貢献をしているのか、実際のところ見えてこないのが現実だと思います。この審議会におきましては、今後具体的な施策を皆さんにご検討いただきながら、後期高齢者が非常に多くなる時代に、皆さんが本当に安全に、安心して暮らせる地域とは何かということ具体的な方策を考えながら進めていくことが必要なのではないかと、今日は実感いたしました。今回は第1回の審議会ですので、次回は2つの会に分かれて審議しながら、また2021年度に向けての町田市のいきいき長寿プランを策定したいと思います。どうか皆さん、本当に市民のため、どのようなプランを立てたらいいかということを考えていただきたいと思います。この度の新型コロナは、我々にとっても大きな刺激となりました。やはりおぎなりの、通り一遍のサービスだけでは対応できないことが突然起こるんだ、それに対してどう対応したらいいのかということを教えてくれたような気もいたしました。この1年間、皆さんと一緒に色々議論していきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

事務局 今日、この議題で提案をさせていただきましたが、ご自宅に資料を持ち帰られた時に、ご質問等も出てくるのではないかと思います。その場合は、事務局に遠慮なく申し出ていただければと思います。

今井会長 今日は、大方こういうことでよろしいのではないかと、皆さんの心の内を見せていただいたような気もいたします。ぜひ、今後もよろしく願いいたします。

5 事務局より

※事務局より事務連絡があった。

6 閉会

今井会長 これで閉会させていただきます。

事務局 本日はこれをもって終了となりますが、大変貴重なご意見、闊達なご議論を交わしていただきまして、ありがとうございました。また次回も皆さまからご意見をいただければと思っております。どうもありがとうございました。